

1 目指す学校

(1) 目指す学校 (チャレンジスクールの使命を果たすために)

- 「誰でもいつでも学べる学校」
- 「自分にチャレンジする学校」
- 「地域に支えられ育てられる学校」

(2) 目指す生徒像

- 自分にチャレンジする生徒 (何事にもチャレンジし、自らの進路を切り拓こうとする生徒)
- 自ら学ぶ力 (基礎学力) を身に付けた生徒
- マナーとボランティア精神を身に付けた生徒

(3) 教育目標

本校は、生徒一人一人が知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、

- チャレンジする人間
- 創造的な人間
- 信頼される人間

の育成に向けた教育を推進する。

(4) スクールイメージ

- チャレンジ Challenge
- 創造 Creation
- 信頼 Confidence

2 中期的目標と方策

(1) 「誰でもいつでも学べる学校」づくり

① 楽しく学べる学校を目指し、生徒一人一人の多様な学ぶ意欲を受け止める指導体制により、学ぶ喜び実感できる学校をつくる。基礎・基本の定着を図り、主体的に学ぶ力を育成する。(学習指導)

② 安心して学べる学校を目指し、生徒を支援する相談体制の充実を図るとともに、生徒が社会生活のマナーとコミュニケーション能力を身につける指導を全教職員で実施し、思いやりを持ちつつ互いを高めあうことができる学校をつくる。

教職員による定期的な面談指導体制とカウンセリングルームで相談担当が毎日対応できる体制を確立し、「教職員に気軽に相談できる」環境を整備する。(学習指導・生活指導・進路指導・特別活動)

(2) 「自分にチャレンジする学校」づくり

① 総合学科、単位制、三部制の特徴を生かした教育課程を編成する。(学習指導・生活指導)

② 生活指導を重視し、時間・身だしなみ・健康等で自律した生活が送れるよう指導する。(生活指導・健康づくり)

③ ホームルーム活動を重視するとともに、特色ある学校行事、部活動、ボランティア活動等多様な体験を通して社会性の育成を推進する。(特別活動・部活動)

④ チャレンジ指定科目と連携した系統的・継続的なキャリア教育を充実させる。(進路指導)

⑤ 学校外における学修成果の単位認定など、生徒の様々なチャレンジを支援する。(学習指導)

(3) 「地域に支えられ育てられる学校」づくり

① 地域の人材を活用し、地域の伝統や文化を教育活動に積極的に取り入れる。(学習指導・地域交流)

② 地域の伝統産業や施設等と連携した体験学習を重視する。(特別活動・部活動、地域交流)

③ 保護者、地域関係者との連携を推進し、開かれた学校経営を行う。(募集・広報活動、地域交流)

④ 学校の人材・施設・設備を活用して、地域文化の向上に貢献する。(地域交流)

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

- ① すべての生徒にわかりやすい授業を実現するため、指導内容・方法の工夫に全校的に取り組む。授業の流れを視覚的に提示するなど「授業のユニバーサルデザイン化」を図る。
- ② 発達障害等で配慮を必要とする生徒への指導計画を作成し、共通理解に基づき適切に指導する。
- ③ 学力向上開拓推進事業の一環として、基礎学力の現況を的確に把握する体制をつくり、学力の更なる定着と向上を図る。特に、自発学習へ向けた指導の充実、読書の機会の拡充を通して、言語能力の向上を図る。
- ④ キャリア教育の充実を図る視点で、チャレンジ指定科目の指導内容の向上を目指す。

イ 生活指導

- ① 生徒が安心して生活し、一人一人の社会的自己実現につながる、地域からも信頼される身だしなみなど基本的な生活習慣の確立を目指す。
- ② 生徒の個別状況を早期に把握し、きめ細かく組織的な指導を行なう。その成果を、「高等学校における特別支援教育体制整備モデル事業」実施校として発信していく。
- ③ 校内美化、省エネ、節電について考え、実践する力を培う。

ウ 進路指導

- ① キャリア教育全体計画を全面的に改定し、1年次から計画的・段階的に社会性の育成を含めたキャリア教育を推進する。
- ② 三修制、四修制に配慮した進路指導体制を確立し、希望進路を実現する指導を行なう。
- ③ 特別な支援を必要とする生徒に対して、卒業後の移行支援を見据えて、組織的な進路指導体制で対応する。

エ 特別活動・部活動

- ① 生徒の現状把握に基づき、学校行事、生徒会活動、部活動の活性化を図り、生徒の帰属意識を高める。
- ② 生徒集会の充実、地域と連携した避難訓練の実施により、社会連帯の精神と責任を重んずる態度を育成する。

オ 健康づくり

- ① 「都立学校における専門医派遣事業」及び「都立高等学校等への特別支援教育心理士巡回相談事業」の実施校として、多様な生徒に対応した相談体制の確立による心の健康づくりへの組織的取組を行なう。
- ② 学校保健計画に基づき、生徒の健康意識を高める組織的指導の充実を図る。

カ 募集・広報活動（地域交流等）

- ① 生徒による学校説明、ボランティア活動参加など生徒が地域へ働きかける活動を推進する。
- ② 地域関連機関との連携を強化し、地域の教育力の活用を促進を図る。
- ③ 創立10周年記念行事を実施し、学校の更なる発展を地域にアピールする。

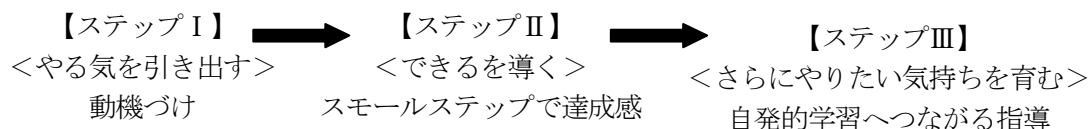
キ 学校経営・組織体制

- ① 学校経営計画の実現を目指す経営参画型経営企画室としての機能強化を図る。
- ② 企画調整会議を学校経営の中心に位置づけ、学校運営を組織的計画的に進めるとともに、校内研修を充実させ、目指す学校像に関する教職員の共通理解を高め、一貫した指導を行う。
- ③ 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。

(2) 重点目標と方策

ア 学習指導

- ① 授業のはじめに、その授業の流れを4項目程度で視覚的に提示するなど「授業のユニバーサルデザイン化」を推進する。
- ② 自ら探求する意欲を高めるため、全教科で次の共通の視点から指導の工夫を行う。
 - ◎ 大江戸スリーステップトライに取り組む。



- ③ 各講座で定着させる基礎学力を明確化し、生徒の視点に立った検証に基づく指導の工夫により、さらなる定着と向上を図る。学力差等生徒の現況を的確に把握し、研究授業などの研修より指導を改善し、「わかる授業」「興味・関心を引き出す授業」の実現を図る。
 - ◎ 教科担当による授業中の生徒状況「気づきシート」を6月に作成し、一人ひとりの生徒情報を共有し、配慮の必要な生徒に対しては、個別の指導計画を作成し、共通理解のもとに指導し、学習成績の評価について共通理解を図る。
 - ◎ 1・2・3年次で定期的な学力テストを年間20回以上実施する。
 - ◎ 必履修科目の講座では、生徒の習熟の度合いに配慮するとともに、共通した教材・指導方法で進度・生徒の理解状況等を相互に確認するなど組織的に基礎学力の定着を図る。
 - ◎ 調べ学習等をできるだけ取り入れ、図書館利用の充実、読書月間の設定を通して、読書活動を推進する。
- ④ チャレンジ指定科目において、キャリア教育の視点からコミュニケーション能力を高める指導を16時間以上計画的に実施する。

イ 生活指導

- ① カウンセリングマインドを持った対応で、社会性の育成につながる基本的な生活習慣を確立させる指導を徹底する。特に、冬服着用時のセーターなど服装指導及び授業時・登下校時のマナー指導を徹底する。さらに、新入生より規定を明確化し、夏服のベスト、アクセサリーについても明確な指導方針でルールとマナーの指導を徹底する。
 - ◎ 1月の身だしなみに関する来校者アンケートで肯定的な回答を90%以上とする。
- ② 中学校との連携、面談・校内巡回等で生徒の状況を随時的確に把握して迅速に対処するとともに学校組織として一貫性のある対応をする。
 - ◎ 毎日3回の校内巡回を、年間を通して実施する。
 - ◎ 指導に配慮を要する生徒の情報交換会（全体会）を3回以上実施する。
 - ◎ 特別支援教育コーディネーター・養護教諭・学級担任などチームとしての対応会議を年間50回以上開催する。
- ③ 特別支援を必要とする生徒に関する共通理解を図り、関連機関と連携して指導の改善を図る。特に、入学当初に中学校から生徒指導情報を引き継ぎ、生徒一人一人に丁寧に対応する。
 - ◎ 各年次の相談担当が関わりながら、外部の発達心理士などによるケースカンファレンスを15回以上実施し、必要に応じて個別支援計画又は指導計画を作成する。また、その成果を共有する報告会を実施する。
- ④ 毎日の清掃指導の充実を図る。
 - ◎ 学校見学者の清潔感に関する肯定的回答を90%以上とする。

ウ 進路指導

- ① 面談指導を充実させ、自己理解を深め、自己の適性を見極める指導を行う。
 - ◎ 個人面談を3回以上、保護者面談を1回以上実施する。
- ② 生徒の進路実現にむけ適宜、講習、補習、面接指導等を実施する。
 - ◎ 進路決定率を80%以上とする。
- ③ ハローワーク、サポートステーション等の地域機関と連携を深め、指導を充実させる。特に、特別な支援を必要とする生徒については、就労支援を積極的に働きかけ、卒業後の移行支援を見据えて進路指導に取り組んでいく。

エ 特別活動・部活動

- ① I部、II部、III部の生徒が一堂に会する学校行事をより充実させる。
 - ◎ 体育祭・文化祭への参加率を80%以上とする。
- ② 生徒会活動・部活動を活性化する。
 - ◎ 部活動加入率について65%以上、2つの部活動を全国大会出場を目指す。
- ③ 全体集会や部集会を活用し、校歌指導や講話などの指導を充実させ、大江戸高校生としての自覚と連帯意識を育む。特に、集会への出席・態度など生徒の取り組み姿勢を指導する。

オ 健康づくり

- ① 教育相談体制を充実させ、相談体制の整備を図るとともに、情報を共有し組織的な指導により、心の健康づくりを図る。週5日間カウンセリングルームにフレンドシップアドバイザーが常駐する体制をつくり、組織的に活用する。
 - ◎ フレンドシップアドバイザーの年間生徒対応人数を1000人以上とする。
- ② 生徒・保護者の健康への関心を高めさせる指導を組織的に行う。
 - ◎ 生徒全体への定期的保健指導を年間5回行う。

カ 募集・広報活動（地域交流等）

- ① 中学生・地域・保護者への情報提供を推進する。
 - ◎ 適応指導教室を含め、学校説明会を7回実施し、参加者数を1350名以上とする。
本校広報紙「大江戸かわらばん」の作成・配布を5回以上とする。
 - ◎ 総務部を中心に退職教職員ボランティアも活用し、500名以上の個別学校訪問へ丁寧に対応し、入選倍率において2倍以上を目指す。
- ② 携帯サイトの活用を図るなど、ホームページの充実を図る。
 - ◎ HP管理委員会で内容・更新確認をして、年間50回以上は内容を更新する。
- ③ 地域清掃をはじめ生徒による地域への働きかけを活性化させる。
 - ◎ 地域清掃、町会行事への参加、地域施設訪問など働きかけを15回以上、参加生徒延べ150人以上行う。
- ④ 創立10周年記念式典・行事の開催、記念誌の発行を通して、本校の教育活動の様子を地域や関係教育機関へ周知し、今後の連携した教育活動へつなげる。

キ 学校経営・組織体制

- ① 教育職員と行政職員が密接な連携のもとに学校運営を進め、学校徴収金等の滞納者数をゼロとする。
- ② 教職員の共通理解を高め、一貫した指導をする組織体制を確立する。
 - ◎ 全教職員による校内研修を3回、課題別グループ研修を年10回以上実施する。
- ③ 経営企画室、生活指導部、保健部などと連携して、施設・設備の安全確認・効率的利用の観点から、施設委員会による校内巡視を行い、より安全な学校環境を整備する。
 - ◎ 組織的な校内巡回キャンペーンを年3回実施する。